

2 説明・報告型レポート

- 「説明・報告型」レポートとは——専門用語や概念、テキストの内容などを簡潔に説明するレポート。
- 内容——用語や概念、テキスト内容の説明。
- 目的——用語や概念、テキストの内容などを理解していることを示す。
- 課題の例——「〇〇について説明しなさい。」
- 文字数——400字～1,200字程度。

■ 手順・構成

(1) 課題を理解する

- レポート課題の指示をよく読み、どのような形式で何を書くことが求められているのか理解する。
 - ・ 提出期限、文字数、ページ設定、記載事項、表紙の有無など。
 - ・ 内容についての指示や注意事項もよく読んでそれにしたがう。



(2) 資料を集める

- テーマの概要を把握する。
 - ・ インターネット検索で概要を知る。
※Wikipedia や一般のウェブサイトは、出発点として参考にする程度にとどめておく。
- 図書館などで必要な資料を入手する。
 - ・ 用語や概念の説明には、専門分野の事典や入門書が有用。
 - ・ できれば複数の資料を参考にする。



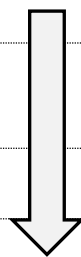
(3) 資料に目を通し、情報を整理する

- 入手した資料を読み、要点をつかむ。
 - ・ 線を引き、書き込みをしながら、またノートを取りながら読む。
※図書館の本には書き込み禁止！
 - ・ 意味段落の構成や、中心文と支持文の関係を意識して、文章の要点を捉える。 **【文章表現編】1～3**
- レポートの構成を考える。
 - ・ 「(4) 書く」の構成を参考に、どの部分にどの情報をどの資料をもとにして入れ込むのか、構成（アウトライン）を考える。



(4) 書く

- I. **全体像——定義や概要をはじめに簡潔に示す**（1～2文くらい。1段落）。
例) 〇〇とは××のことである。
- II. **部分——詳しい説明を加えたり具体例をあげたりする**（1～2段落）。
例) つまり〇〇ということである。
例) たとえば／じっさい……
- III. **補足説明——付け加えておくべき情報があれば記す**（1～2段落）。
例) なお〇〇の場合は××である。
- IV. **参考文献情報など——参考にした文献や引用した文献をあげる。**
 【構成編】5 参考文献の重要性
※心理学や教育学などの分野ではキーワードをあげることもある。



(5) チェックする

- 原稿を読み直し、誤字・脱字がないか、また文体や文章表現、構成などは適切か確認する。
 レポート・ライティング 10 最終原稿チェックリスト

※資料の情報はそのまま「書き写す」／「抜書きする」のではなく、自分のことばで要点をまとめる。

【文章表現編】2 要約のコツ、3 要約トレーニング

※重要箇所を資料から引用する場合には、引用のルールを守る。 **【構成編】6 引用・参照の重要性**

※ウェブ上の情報には信頼性の低いものも多く含まれている。ウェブ上の情報を用いる場合には、研究論文や学術系(ac.jp)・政府系(go.jp)ウェブサイト、図書館ウェブサイトからリンクがはられているデータベース類など、信頼できるものを用いる。Wikipediaは参考程度にとどめ、書籍などで裏づけをする。


説明・報告型レポート 文例

例) 以下の2点について調べ、わかりやすく説明し、A4用紙1枚のレポートにまとめなさい。

- ① ピグマリオン効果
- ② ハロー効果

定義	「ピグマリオン効果」とは、期待することによって、対象者からやる気が引き出され、成績が向上する現象をさす心理学用語である。キプロスの王ピグマリオンが自分で彫った象牙の美しい乙女像を愛し続けた結果、本物の女性になったというギリシア神話に由来している。「教師期待効果」あるいは「ローゼンタール効果」ともいわれ、逆に、周りから期待されていないことで、対象者の成績が低下する現象を「ゴーレム効果」という。
説明	
具体例	アメリカの教育心理学者ローゼンタールは、1963年に行った実験で「将来、成績が伸びる子ども」などと偽った情報を教師に与えると、無作為に抽出された子どもの成績が平均以上になる現象を報告した。この効果は、担任教師が子どもに期待をかけ、ていねいに扱うことで、子どもたちも期待されていることを意識するため、平均以上の成果が確認できると説明されている。
補足説明	一方、ピグマリオン効果は実際には確認できておらず、再現性もないとして、教師や指導者の心構え程度の概念と考えるべきだとの意見もある。(430字)
キーワード 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワード ゴーレム効果 / ローゼンタール ・ 参考・引用文献 <ol style="list-style-type: none"> (1) 編集部. “ピグマリオン効果”, ニッポニカ・プラス (ジャパンナレッジ). http://japanknowledge.com/library/, (参照 2014-05-28) (2) 梶田正巳 (1999) 『心理学辞典』有斐閣, pp.715-716.

心理学や教育学のレポートでは、キーワードをあげることもある。

 **【構成編】5 参考文献の重要性。**ただし、参考文献一覧の書式は、学問分野によって異なるため、指示がある場合にはそれに従う。

定義	「ハロー効果」とは、心理学者エドワード・ソーンダイクによって提唱された心理的効果の一つである。対人評価の際に、ある側面で顕著な特徴をもっていると、その評価を全体的評価にまで広げてしまう現象のことを指す。ポジティブな方向への歪みを指すことが多いが、ネガティブな方向へのハロー効果も存在する。こういった現象を逆ハロー効果と呼ぶ。
説明	
具体例	たとえば、教師が生徒を見る場合、成績の良い生徒はそれ以外の面でも肯定的に評価されがちであるのに対し、成績の悪い生徒は、それ以外の面でも評価が悪いほうに傾くこともある。
補足説明	評価者は、こうした認知の歪みに十分な注意を払う必要がある。(274字)
キーワード 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーワード 光背効果 / 後光効果 / 逆ハロー効果 ・ 参考・引用文献 <ol style="list-style-type: none"> (1) 富高辰一郎. “ハロー効果”, イミダス (ジャパンナレッジ). http://japanknowledge.com/library/, (参照 2014-05-28) (2) 林文俊 (1999) 『心理学辞典』有斐閣, p.261.